

新型コロナウイルス感染症に対する

キリスト教会の心意気

新型コロナウイルス感染症に対する日本基督教団と世界教会協議会等の指針は、私達につながる知恵と勇気を与えてくれます。

「発生から非常事態宣言まで」

正月のお祝い気分も抜け切らない1月6日、昨年12月から中華人民共和国湖北省武漢市で原因不明の肺炎が発生していると、厚労省から発表があった。

当初は、隣国の一都市、国内でもクルーザー船や屋形船など、多くの人々の日常からは遠くかけ離れた出来事にもみえた。

2月24日、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」が厚労省で開催され、当初から政府に対し「これから1、2週間が急速な拡大に進むか、収束できるかの瀬戸際と」助言していた。

翌25日には、新型コロナウイルス感染症対策本部が、今後の感染拡大防止策として「地域で患者数が継続的に増えている状況では、・・・広く外出自粛の協力を求める対応にシフトする」と決定していた。

3月9日、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が「3つの条件 筆者注：密閉、

密集、密接）ができるだけ同時に揃う場所や場面を予測し、避ける行動」をとるよう、政府と国民に対し緊急提言をおこなった。

東京都では3月21日に専門家と知事の意見交換会を開き、23日には、4月12日を目途に、3密を避けること、施設利用、イベント、若い人々、若い人々に関わる大学や企業通勤、テレワーク等について、知事から協力を求めるに至った。

28日、国も国民に対して、3密に関する協力を要請した。

しかし、事態は確実に悪化し、4月7日には、東京都で感染者数が千人を超え、増加ペースが5日で2倍に達した。感染経路の特定もより難しくなった。医療崩壊の恐れも強まった。この間、政府は、医療関係者や都知事等から再三、再四緊急対応を求められていた。

ついに同7日、首相は、5月6日を目途に、新型コロナウイルス感染症特別措置法により、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県に対し、緊急事態を宣言した。

同夜、都では、外出自粛等を旨とする知事会見が開かれ、10日には「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京都における緊急事態措置等」が発表された。医療機関への通院、食料の買い出し、職場への出勤など、生活維持に必要な場合を除いて、原則として外出しないこと、事業者には、施設の使用停止及び催物開催の停止が要請されている。

その後、政府は、全国的な感染激化を受け、16日、先の7都府県に北海道、茨城、石川、岐阜、愛知各県、京都府を加えた「特定警戒都道府県」の指定、全都道府県対象の緊急事態措置を発表した。

「2」梅ヶ丘教会の対応

3月1日の定例役員会で3・4月の対応と予定を決めた。礼拝については、奉仕者のマスク着用、窓開け等による換気留意、集会については、事務会等必要最小限度とし、集まつの飲食は不可、会食については、ランチタイム、愛餐会等を中止することとし、8日に予定表を含むお知らせを教会員に配った。事態の悪化、23日の都知事の要請等に対し、牧師から、感染防止として換気の徹底、さらに玄関扉の開放、礼拝時間の短縮、次第の変更（40分程度）がオンラインで提案された。オンライン協議を経て、29日に牧師上程による次の議題で臨時・新旧合同役員会を開いた。

- ・感染症への対応（礼拝、教会学校、祈祷会の継続）
- ・主日礼拝と諸集会の中止に関する対応（教会内外への告知、説教等主日礼拝、教会学校、財務、各委員会の働き、今後の予定、感染の状況が厳しくなった場合）

協議の結果、次に掲出の「梅ヶ丘教会からのお知らせ」を作成し教会員に配布した。

.....

3月30日(月)から4月18日(土)まで、主日礼拝と教会学校、およびすべての集会を中止する。

理由

教会は感染の温床となっている「密閉」「密集」「密接」の要素を持ちます。自己と他者を守る必要があります。同時に、教会の持つ社会的な責任を果たさなければなりません。礼拝中止の決断に際して牧師は、何が最善かを考えました。考え方の基準は、主キリストの前に教会員皆が生きられることです。教会が主日礼拝をささげるとき、誰でも来てください」と言えるものでなければなりません。誰かは来るのが出来て、誰かは来ることが出来ない」「一般の人々を招くことが出来ない」「これではいけません。すべての教会員と世の中に対して、開かれた礼拝をささげられるようになるまで、時を待つことが最善と考えて決断をいたしました。

.....

主日礼拝については、短縮した次第で土曜日に録音し「週報」と共に教会ホームページにアップ、日曜10時30分には聴けるようにしている。また、適宜郵便でも情報発信している。全教会員に向けて「郵便振替による献金のお願い」も郵送した。なお、4月6日、21日に予定していた外壁塗装等工事は実施することとし、予定より早く16日に完了した。

3)日本基督教団の声明

3月6日、27日、4月10日に「新型コロナウイルス感染症に伴う注意喚起について」第1、第3信が発信され、第3信には「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する声明」の表題がある。声明から抜粋した。

†

自宅で礼拝をささげること、他者にウイルスを感染させないという意味で「神の愛の業」です。

牧師と伝道師をはじめ、教会の命を守るために働く人々を、祈りをもって支えてください。

わたしたちの罪を赦される「愛と命の神であるイエス・キリスト」に招かれている一人ひとり、霊によって強く結ばれています。教会に直接に集まらなくても、わたしたちは神を礼拝することができ、神の愛に応えることは可能です。今、教会に求められていることは、新型コロナウイルスという世と人々を引き裂く「悪しき力」に打ち震えている人々のために真摯に祈る群れとなることです。方法はいくらでもあります。今こそ教会は、知恵と力を結集するときです。

※日本基督教団サイト <http://uccj.org/> より

4)世界の教会による声明

3月26日に WCC および各地域エキュメニカル組織による共同声明」として、WCC

世界教会協議会と8つの協議会が発信した。抜粋を掲載する。

†

身体的な距離を取ることは、霊的に孤立することを意味しません。今こそ、貧しい人々、病んでいる人々、片隅に追いやられた人々、そして高齢者など新型コロナウイルスによって最も危険にさらされている人々に仕えたり、何かを提供したり、あるいは気配りしたりする中で、世界中の教会が、社会における自らの役割を見つめ直す時です。

最近、世界の多くの地域では外出さえできなくなっています。しかし、たとえ私たちが家に閉じこもることになっても、キリストのひとつのからだなる教会に結ばれる洗礼のゆえに、互いの間の深い霊的な連帯を経験することができます。

家で祈ることができます。神に感謝をささげ、力や癒しや勇気を求めて祈ることもできます。さらに、公の礼拝に直接に集まらなくても、私たちは神と隣人への愛を示すことができるのです。多くの教会は、礼拝をオンライン中継したり動画で共有したりしています。電話を使って教会員と交信し、牧会的配慮を続けている牧師たちもいます。

※Kirishin ホームページより
<http://www.kirishin.com/2020/04/11/42335/>